

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196200057		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム鶴ヶ島		
所在地	埼玉県鶴ヶ島市上広谷652-2		
自己評価作成日	令和 3年 1月26日	評価結果市町村受理日	令和 4年 5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和4年 3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東武東上線若葉駅より徒歩10分で閑静な住宅街に立地している。常に入居者様、ご家族様の意見を尊重し、一人ひとりのペース、自己決定に沿った介助、支援を心掛け取り組んでいる。入居者様と職員のコミュニケーションの時間をより多く取れるよう無理のない業務編成を心掛けています。関係構築に重きをおき、入居者様への笑顔、安心につながる取り組みをしています。また、終末期・重度化においては、早期から話し合いの場を設けており、関係者全員と方針の統一を図っており、入居者様の状態変化に合わせて随時家族の意向を確認すると共に医療関係者と連携を図りながら安心して納得が得られた終末期に向け取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな、自然に恵まれた、郊外の住宅地に立地している。「元気で笑顔で健やかに過ごしましょう」を事業所の理念に掲げている。利用者の目線に合わせて、いつも、元気に大きな声で、「おはようございます」「お先に失礼します」と笑顔で挨拶を交わしている。利用者一人ひとりに寄り添い、ゆっくり、会話することを心掛けている。利用者のみならず、職員同士のコミュニケーションもよく取れていて、職員の退職者は少ない。利用者の楽しみでもある、食事についても、利用者から、食べたい物のアンケートを取り、好きな鰻や寿司などを提供している。月1回のおやつレクリエーションでも、抹茶クッキー、スイートポテトづくりを楽しんでいる。又、医療との連携でも、月2回の訪問診療、毎週の訪問看護、訪問歯科などが来ていて、健康管理に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、企業理念を職員それぞれが意識するよう、朝礼時に唱和し、考え実行しています。	「いつも、元気に、笑顔で、健やかに過ごします。」を、事業所の理念として、毎朝、唱和している。朝夕の挨拶は、必ず、元気に、笑顔でおこなっている。利用者の目線に合わせ、ゆっくり話す時間を作るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なので、以前のような交流はしていませんが、散歩時にご近所の方とお話したり、お庭で咲いた花を頂いたり温かく見守って頂いています。コロナ禍でも何が出来るかは考えていこうと思います。	コロナ禍前は、近所の散歩で、花を貰うなど交流があった。町内会の清掃にも参加していた。今は、近くの中学校生が、敬老会、夏祭りなどで飾る、折り紙、花リングなどを届けて、玄関先で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では難しいが、認知症相談窓口となっているため、電話等で問い合わせがあれば相談に乗りアドバイスしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、事業所内開催とし、コロナ禍、書面により取り組み状況などを報告している。	コロナ禍前は、2か月に1度、市役所の担当者、管理者等が、参加して開催していた。今は、書面開催として、市役所に書面提出し、民生委員、地域包括支援センターにも郵送している。内容は、事業所の現状、ワクチン接種などである。	現状書面開催で書面報告をしているが、コロナ収束後は、対面開催を再開し、市役所の担当を始め、地域包括支援センター、民生委員、家族等にも参加をお願いし、より充実した運営推進会議をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携	通常の業務報告等(コロナの状況・空室状況・避難訓練報告・推進会議報告)メールや時には窓口に行くこともあります。分からないことは直ぐに対応して頂いております。	運営推進会議の報告や、市役所が主催の、地域密着型サービス事業者の会議が、リモートで開催され、参加している。コロナ禍では、市役所より、グローブ、消毒液、マスクなど配布があり、助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを大前提に身体拘束適正化検討委員会を中心に定期的に研修をしたり、事例検討会で問題を話し合ったりしています。	3ヶ月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催している。毎月開催の合同カンファレンスで、何が拘束に当たるかなど、具体的事例を基に、打ち合わせしている。日々の支援の中でも、「その言い方違うよね」と職員同士で、確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を事業所内で開催し、事業所内で見過ごされない環境作りにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見制度の対象者です。後見人の社会福祉協議会と毎月情報交換を行い、随時連絡をとりあっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすく説明していますが、不明な点や疑問があれば随時、聞いてくださいと伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は家族会等で意見交換する機会があったが、現在は来所時や電話、リモート面会時に意見や要望を伺っています。利用者様の意見は職員が直接聞いています。	コロナ禍前は、年4回家族会を開いて意見交換していた。今は、面会中止なので、メールや、リモートで、やり取りしている。家族からは、面会の再開、誕生日に欲しいもの、地震は大丈夫かなど意見が寄せられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月一回の各フロアのカンファと合同会議にて意見や提案は聞くことが出来ています。また、年2回、個別面談も行っています。本部職員も定期的に訪問し、施設の運営状況を把握しております。	月1回合同会議があり、その後、フロア会議が開かれる。開催前に議案の案内をして、意見を求めている。食形態の変更など業務の見直し、感染対策など提案がある。また、年2回個人面談で意見を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、考課表を用いて個々の取り組み姿勢や勤務状況を把握し、管理者として評価を行っています。各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務配置を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍では研修にはオンラインで参加し、また、WEB配信による研修材料を各個人が自由に閲覧でき、学習出来るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護報酬改定時の疑問点やコロナ禍での困りごと、空室状況等を電話やメール、リモート会議で行い、情報交換しています。良いところは積極的に取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談する事で、不安や要望を把握し、職員で共有しながら安心して生活がスタート出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人だけでなく、家族には安心して施設に預けられるように丁寧な聞き取りをしています。家族の意向も職員間で共有し信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に柔軟に対応出来るように智識を深め、提案していく様になっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のやりたい事、出来ることを尊重し、出来ないことは一緒にやっていく姿勢で関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診の際の付き添い対応や、家族来所時には情報交換・コミュニケーションを図っています。本人、家族の意向を第一に考え、要望を聞く時間をなるべく多く作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍、親せきや友人との電話や年賀状のやり取りの手助けをしている。グーグルマップで住んでいた地域を閲覧したり、利用者が会話する馴染みの人や場所等に同調しています。	コロナ禍前は、随時面会があり、家族を始め親戚や、近隣の友人等が訪れていた。車でドライブがてら自宅近辺や公園にも出掛けていた。今は、手紙や、年賀状の支援やパソコンで自宅周辺を検索して楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は気の合う方と座るような配慮をし、レクリエーション活動では協力し取り組み、利用者自身が達成感を味わえるような工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り退去にてサービス終了となった方について、看取り後、職員からメッセージを送ったり、一周忌にはメッセージを添えて献花しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な方に関してはケアプラン、生活上においても本人に希望を伺うようにしている。意思疎通の困難な方についても表情や仕草で把握に努めている。また、これらの情報を職員間で共有している。	契約時に、自宅訪問して、日常の生活のリズム、趣味や嗜好を確認している。入居後は、「どんなことがしたい」「何が食べたい」と会話の中で、聞き取っている。困難な場合は、表情、仕草、手の握り方などで判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の家族からの情報提供をもとに、本人の生活や暮らし等を把握し、アセスメントシートに記入することで情報共有に努めている。また、本人との関わりの中で入所時の情報だけでは分からなかった情報を徐々に入れ、活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定、食事量、排泄、入浴の生活記録を行い、皮膚の変化、体調の変化等、気がつきがあれば申し送りを行い、入居者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で気がつきがあれば月1回のカンファレンスで話し合いをし、入居者様がより良い生活を送れるようにケア出来るように努めている。またそれらの内容はケアプランに反映出来るように介護計画を立てている。	月1回カンファレンスが開かれる。介護記録や業務日報を中心に、管理者、ケアマネジャー、職員が参加して、プラン作成をしている。入退院、変化時は、緊急カンファレンスを開き、かかりつけ医の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で日々の気づきや変化があればその都度、個別記録へ記入し、問題点があれば解決出来るように話し合いをしている。また、それにより、ケアプランの見直しが必要であればその都度変更を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、多機能性を持つことは難しいが、様々な支援・地域の情報を取り入れ、活用出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であり、入居者が直に関わるのはまだ難しい状況ではあるが、オンラインの活用により、イベント参加等に取り組めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を行っており、往診時に気になる点があれば相談させて頂いたり、それ以外にも例えば褥瘡の様子等をカメラで撮り、オンラインで診て頂く等の対応をしている。また、以前からのかかりつけ医があればそちらの受診も可能である。	提携医があり、月2回の訪問診療がある。訪問看護、訪問歯科は、毎週来ている。夜間は、提携医の看護師が対応、24時間オンコール体制となっている。眼科、皮膚科などは、家族が同行、緊急時は、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護では、日常生活の気付き、排便状況等、相談し、対応している。また、処置の仕方、指示等があれば、申し送り等で共有するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には、病院職員と速やかに情報提供を行っている。現在、コロナ禍で面会は難しいが、電話連絡等で情報交換し、速やかに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期に入った場合は往診医、ご家族、職員で話し合いの場を設け、今後の対応について話し合いを行い、その情報を職員間でも共有している。	入居時、重度化した時の指針があり、詳細説明し、同意を頂いている。尿量が減少したり、食事が摂れないなどあれば、かかりつけ医や家族と相談、今後どのようにするか、相談している。看取りをおこなっており、2年間で、4名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、必要な書類を一つにまとめ、常に確認・取り出せるようにしている。また救急搬送時も慌てないように救急者を呼ぶときのやり取りの仕方を目のつきやすい場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、消防・通報・避難訓練の実施をしているが、今年度もコロナ禍のため、施設内での自主訓練、それ以外に災害に対しても災害対策マニュアルを作成し、動画等を参考にしながら、防災についての意識向上に努めている。	避難訓練は、年2回実施、うち1回は、夜間想定でおこなっている。近隣の住民にも、緊急時の応援をお願いしている。備蓄品は、飲料水、レトルト食品など5日分を保管している。近くに大きな河川はないため、水害のリスクは少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に精神的な苦痛を与えず、安心するような声掛けを行っている。特に排泄時は声の大きさに注意し、安全な声掛けを個々に対応しています。	個人情報については、書類は、鍵付きロッカーで保管しパソコン、タブレットは、パスワード管理としている。トイレ誘導は、耳元で小声で誘い、トイレや浴室のドア閉めは励行している。また、「ちゃん」付けの呼び名は禁止している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように職員間の情報や声掛けしながら実行しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の声を大事にし、個々の体調管理も行いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の身だしなみを入居者と職員と一緒に鏡でチェックを行います。入浴後の洋服を選んで頂き、おしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策のため、入居者と職員と一緒に食事することは中止しています。食器拭きを手伝って下さる入居者もいらっしゃいます。	食材は外注で、カロリー、献立は、決まっている。出来る人は盛り付けや、下膳を手伝う。食べたい物を聞いて、鰻や寿司などが提供される。毎月おやつレクがあり、クッキーやスイートポテトなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせこみが見られる入居者に対して食材や水分はトロミをつけて少しでも摂取しやすいように対応しています。水分量・食事量を記録に残し、摂取状況の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人の状況に応じた支援をしています。拒否等見られた場合は無理強いはいしないように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望を聞き、排泄のパターンを活かし、トイレ誘導の声掛けをしています。	排泄チェック表や、タブレットで、排泄時間、形態、場所など入力して、定時にトイレ誘導している。夜間は、自力で行く人の見守り、パッドの交換で対応している。退院後のトイレ誘導で、オムツを外せた人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりとって頂き、おやつ時にも乳製品、果物等で整腸に努めている。便秘気味の方は週一回の訪問看護時に座薬や摘便等を行い、便秘対応としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりがしっかりと時間を取ってゆったりと入浴出来るように支援している。入浴前後の体調の確認を必ず行っている。	3日に1回のペースで、基本午前中の中の入浴としている。午後入浴も可能、2日に1回入る人もいる。入浴剤や、ゆず、しょうぶ湯もある。職員と、昔話、食事、季節の話などしながら、会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調に応じて、休息して頂いたり、気持ちよくお休みして頂けるように室内温度を調整したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後の処方箋を必ずチェックし、職員全員が薬の内容を把握している。薬の変更があった場合、症状に変化が無い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみの時間をとっていただくためにご本人の希望をお聞きしている。(歌、ビデオ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍での現状では外出支援は難しいが、リモート面会は継続中。面会制限解除後はご家族様と出掛けられるよう支援いたします。	コロナ禍前は、家族と食事に出掛けたり、家族が、面会に来て食事介助したり、居室でお茶会などしていた。コロナ禍で遠出は出来ないうが、お花見、初詣、運動会などはおこなった。晴れた日は近所の散歩や、庭にベンチを出しての外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では入居者がお金を使うことはないが、中には小銭入れをご自身で管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍のため、面会は制限しているが、リモート面会にて短い時間でのご家族の方と楽しく会話されています。また、電話やご家族からのお手紙は入居者にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍で外出が出来ないため、入居者が季節を感じ取れるように折り紙を使い、四季の物を作ったり、また季節の食べ物のイラスト等を掲示し、共有空間に飾ることで入居者が目で見て楽しんで頂けるよう工夫しています。	エアコン、加湿器が完備され、温度や湿度は管理されている。食堂には、ソファベッドがあり、ゆっくり出来る。壁には、職員と一緒に作った、節分の鬼の面、ひな人形などが飾られ、廊下や玄関には、みんなで書いた書初めや作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で過ごされる時には席の配置を工夫したり、午後から入居者が休息されたい時はゆっくりと居室にて休息がとれるように入居者がストレスを感じないように支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のあるご家族の写真や手紙・母の日、父の日、誕生日プレゼント等の御家族からの贈り物を置くことで入居者が居心地よく生活出来るように配慮しております。	エアコン、洗面台、クローゼットは備え付け。その他は、自宅から馴染んだ物、趣味の物など持ち込んでいる。仏壇、テレビ、タンス、家族の写真など様々である。掃除は職員が中心に、出来る人は一緒におこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手摺を設けており、フロアー、廊下、居室内ではフローリングカーペットを使用しているため、入居者が安心かつ安全に生活出来るよう環境整備をしています。		